


## 2019 年度国立天文台研究集会開催報告書

2019 年 7 月 2 日

国立天文台長 殿

代表者	氏 名	(ふりがな) たなかまさゆき 田中賢幸 
	所属・職	国立天文台・准教授
研究集会名	第 6 回銀河進化研究会	
開催期間	2019 年 6 月 5 日 ~ 2019 年 6 月 7 日	
開催場所	東京大学柏キャンパス図書館	
参加人数・国数 (国数は所属機関の国数)	88 名・2	
発表資料等 の情報	<a href="https://member.ipmu.jp/kyoto.yabe/gev2019/index.html">https://member.ipmu.jp/kyoto.yabe/gev2019/index.html</a> <small>研究集会のプログラムや発表資料等をまとめた HP があれば URL を記載してください。提出後に作成された場合もご連絡ください。国立天文台研究交流委員会 HP にリンクを張らせていただきます。HP ではなく、論文や冊子を作成している場合は、可能であれば一部ご提供ください。(論文の場合は DOI の情報でも可)</small>	
研究集会の概要	<p>銀河進化研究会は毎年継続して行なっている研究会で、今回が第 6 回である。本研究会は(1)銀河の様々な側面を各自が思う存分に発表し、(2)それを踏まえて今後を見据えた中・長期的な戦略を議論することを目的としている。特に後者は継続的な研究会ならではの目的で、これまでに様々な衛星ミッションや将来計画の議論を重ねてきている。研究発表のテーマは特に制限せず、銀河を多角的に捉えるために銀河の広い分野から様々な講演を毎回受け付けている。</p> <p>本研究会の特徴の一つは議論を中心に据えていることで、講演の途中で質問・議論をすることを推奨している。活発な議論をするために、テレビ会議接続は行なわない。マイクも極力使わないよう心がけている。また、通常セッションでは、いつもと同じような顔ぶれになることを避けるため、招待講演を行わない。その他、議論が盛り上がるような様々な工夫をしていて、その成果もあってか、毎回活発な議論が行われている。</p> <p>今回からは英語が公用語となった。学生のさらなる修行の場となることのほかに、近年増えている海外からのポスドクや留学生等の参加をうながす狙いもあった。結果、参加者のうち 17 名が外国人であった。今回のフォーカスセッションのテーマは、近々コミッションが本格的に始まる Prime Focus Spectrograph だった。これは日本コミュニティーを挙げて推進することが期待されているのに加えて、今の学生にとっては大きな結果を出すチャンスである。プロジェクトの総括から、現在の戦略枠プログラムの準備状況まで幅広く基調講演者にレビューしてもらい、さらに若手がどのように今後関わっていくといいのか議論を行った。</p>	

研究集会の成果

2019年6月5日から7日にかけて3日間の日程で、東京大学柏キャンパスにおいて第6回銀河進化研究会を開催した。全国各地から約90名の参加があり、42件の口頭発表、16件のポスター発表があった。ここから分かるように、参加者の実に6割が発表をしていて、参加者の意識の高さが伺える。この講演割合は他の研究会ではまずみられない高さである。

講演分野も、近傍銀河から遠方銀河に至るまで、非常に幅広い話題の講演が行われた。全体的に観測に講演内容が偏りがちであったが、今まではそういうことはなく、今後同じ傾向が続くようであれば対策を考えたい。発表時間内の質問に加えて、google documentを用意することで、誰でも好きな時に講演者に質問したり議論したりできるような環境を提供した。質問時間では収まらないようなディープな質問が出てきたりと、比較的効果的であったと考えている。会議中にもリマインダーを流すなどさらなる工夫をすると、より効果も高まるであろう。こういった質問・議論を促すような努力をしているのも、他の研究会にはない特色の一つである。

今回は英語が公用語となり、全講演が英語での発表であった。学生にとってはハードルが高いかも知れないが、いい練習の場になったであろう。英語のせいも、議論の盛り上がりも今一つだったのが残念ではあるが、外国からのポスドクや留学生等の参加も多数あり、全体として英語を公用語にしたのはよかったと思われる。

フォーカスセッションではすばる望遠鏡の次世代分光器、Prime Focus Spectrograph (PFS) を議論した。これは銀河進化研究にうってつけの観測装置で、戦略枠プログラムのみならず、共同利用観測装置としても非常に人気のある装置になることは間違いない。PFSの開発の現状から今後の予定、そして戦略枠プログラムの準備状況まで系統的に話を聞いたのは非常に有意義であった。各自が今後このプログラムにどう関わっていくかを真剣に考えるいい機会になったと考えており、特に将来を担う若者にその機会を与えられたことは本研究会の一つの大きな成果と言えるだろう。

来年度以降の研究会に向けての議論もあった。改善点等がいくつか指摘され、より良い研究会とするための努力は今後も惜しまずに続けるつもりである。また、現段階では可能性の一つに過ぎないが、英語を公用語とする以上国内にとどまる大きな理由は見当たらない。2014年に第一回を始めてから、着実に国内でのモーメンタムを増やし、若手が参加する銀河研究会で最も大きなもの一つになった。国内での交流は言うまでもなく有意義であるが、第6回まで経た現在、海外の研究者との交流を目指してもいい段階に来ているのかも知れない。

本研究会も第6回を迎え、初回に参加した学生たちがすでに学位を取って巣立っていった。日本の天文学を牽引する人達がこの研究会から現れることを願っている。この研究会の運営は比較的シニアな人たちがなされていたが、それも若返らせるタイミングにある。そこで、今回は世話人の初期メンバーのほとんどに退任していただき、新しい若い世話人を取り入れた。来年からは、研究会を最初から引っ張ってきた田中・矢部の両氏が抜ける。新しい世話人に銀河進化研究会を今後ますます発展させていただきたいと思う。

<p>その他参考 となる事項 (希望事項も 含む)</p>	<p>今年度は国立天文台研究集会経費に加えて、東京大学でも予算獲得に成功し、70万円を旅費等に当てることができた。こういった経費獲得は今後も目指していくが、天文台研究集会が主な財源であることは変わらない。今後もサポートをお願いしたい。</p> <p>本研究会では開催場所を全国の研究機関で持ち回り制としている。これは、地方の研究機関にとって不公平にならず、研究者の輪を広げ、学生教育・若手育成に有益となるように、との配慮によるものであり、今後ともご理解を頂けると幸いである。上で述べたように、本研究会を海外へと展開することは自然なことであると考えている。来年度以降、どうかご理解・ご協力をたまわりたい。</p>
---	---

※ 記入欄は必要に応じ適宜スペースを拡張して記入のこと。

※ 報告書の公開にあたり支障を生ずるおそれがある場合は、当該部分とその理由を明記すること。